様式第二号の十三（第八条の十七の二関係）

（第１面）

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和6年4月22日

千葉県知事

熊谷　俊人　　殿

提出者　272-0011

住　所　千葉県市川市高谷新町9番地の1

法人名　日触テクノファインケミカル株式会社

代表者　代表取締役社長　田中　準一

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号　　047-328-1185

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の２第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	日触テクノファインケミカル株式会社
事業場の所在地	千葉県市川市高谷新町9番地の1
計画期間	令和6年4月1日　　から　　令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類：　製造業　　中分類：　化学工業
②事業の規模	前年度の製造品出荷額　26億円
③従業員数	106
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	廃油(引火性)→委託処理(中間処理：焼却・混合) 廃酸(強酸)→委託処理(中間処理：焼却) 廃アルカリ(有害)→委託処理(中間処理：焼却)

（日本産業規格　A列4番）

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

（管理体制図）
別紙(管理体制)

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度（令和5年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	廃油(引火性)	廃酸(強酸)
排出量	96 t	49 t

（これまでに実施した取組）
溶剤を再利用することで、発生を抑制した。
製造プロセスを見直し、発生量を抑制した。

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	廃油(引火性)	廃酸(強酸)
排出量	150 t	30 t

（今後実施する予定の取組）
製造プロセスを見直し、廃棄物の発生が少ない処方を継続的に検討する。
新規製品については、既存製品よりも廃棄物の発生が少ない工程を検討する。

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
廃棄物の種類ごとに分別し、保管を実施している

②計画

(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
分別に関する啓蒙活動を継続して実施する

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

【前年度（令和5年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	廃油(引火性)	廃酸(強酸)
自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	０ｔ	０ｔ

（これまでに実施した取組）

再生利用可能な廃棄物は無かった為実施していない

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	廃油(引火性)	廃酸(強酸)
自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	０ｔ	０ｔ

（今後実施する予定の取組）

再生利用可能な廃棄物は無い為実施の予定はない

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

【前年度（令和5年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	廃油(引火性)	廃酸(強酸)
自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	０ｔ	０ｔ
自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	０ｔ	０ｔ

（これまでに実施した取組）

製造工程を見直し廃油を再利用できるか検討した

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	廃油(引火性)	廃酸(強酸)
自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	０ｔ	０ｔ
自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	０ｔ	０ｔ

（今後実施する予定の取組）

製造工程を見直し、発生量が原単位で拡大しないようにする
社内処理については継続検討する

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

①現状

【前年度（令和5年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	廃油(引火性)	廃酸(強酸)
自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t

（これまでに実施した取組）

自ら埋め立て処分する廃棄物がない為実施していない

②計画

【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	廃油(引火性)	廃酸(強酸)
自ら埋立処分行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t

（今後実施する予定の取組）

自ら埋め立て処分する廃棄物がない為実施の予定はない

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

【前年度（令和5年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類		廃油(引火性)	廃酸(強酸)
全処理委託量		96 t	49 t
	優良認定処理業者への処理委託量	78 t	49 t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t

（これまでに実施した取組）

溶剤を再利用することで、発生を抑制した。
製造プロセスを見直し、処理委託量を抑制した。
引火性廃油については、有価での引き取りについて、業者と協議をした

<table>
<tr><td colspan="2">②計画</td><td colspan="4">【目標】</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">特別管理産業廃棄物の種類</td><td>廃油(引火性)</td><td>廃酸(強酸)</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">全 処 理 委 託 量</td><td>150 t</td><td>30 t</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>優良認定処理業者への処理委託量</td><td></td><td>110 t</td><td>30 t</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>再生利用業者への処理委託量</td><td></td><td>0 t</td><td>0 t</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>認定熱回収業者への処理委託量</td><td></td><td>0 t</td><td>0 t</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量</td><td></td><td>0 t</td><td>0 t</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="4">（今後実施する予定の取組）
製造プロセスを見直し、廃棄物の発生が少ない処方を継続的に検討する。
新規製品については、既存製品よりも廃棄物の発生が少ない工程を検討する。
引火性廃油については、有価での引き取りについて、業者と検討をしていく。</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">電子情報処理組織の使用に関する事項</td><td colspan="4">【前年度（令和5年度）実績】</td></tr>
<tr><td colspan="4">特別管理産業廃棄物排出量
（ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。） 324 t</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="4">（今後実施する予定の取組等）
電子マニフェスト使用中</td></tr>
<tr><td colspan="2">※事務処理欄</td><td colspan="4"></td></tr>
</table>

備考

１　前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに１枚作成すること。

２　当該年度の６月30日までに提出すること。

３　「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

４　「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

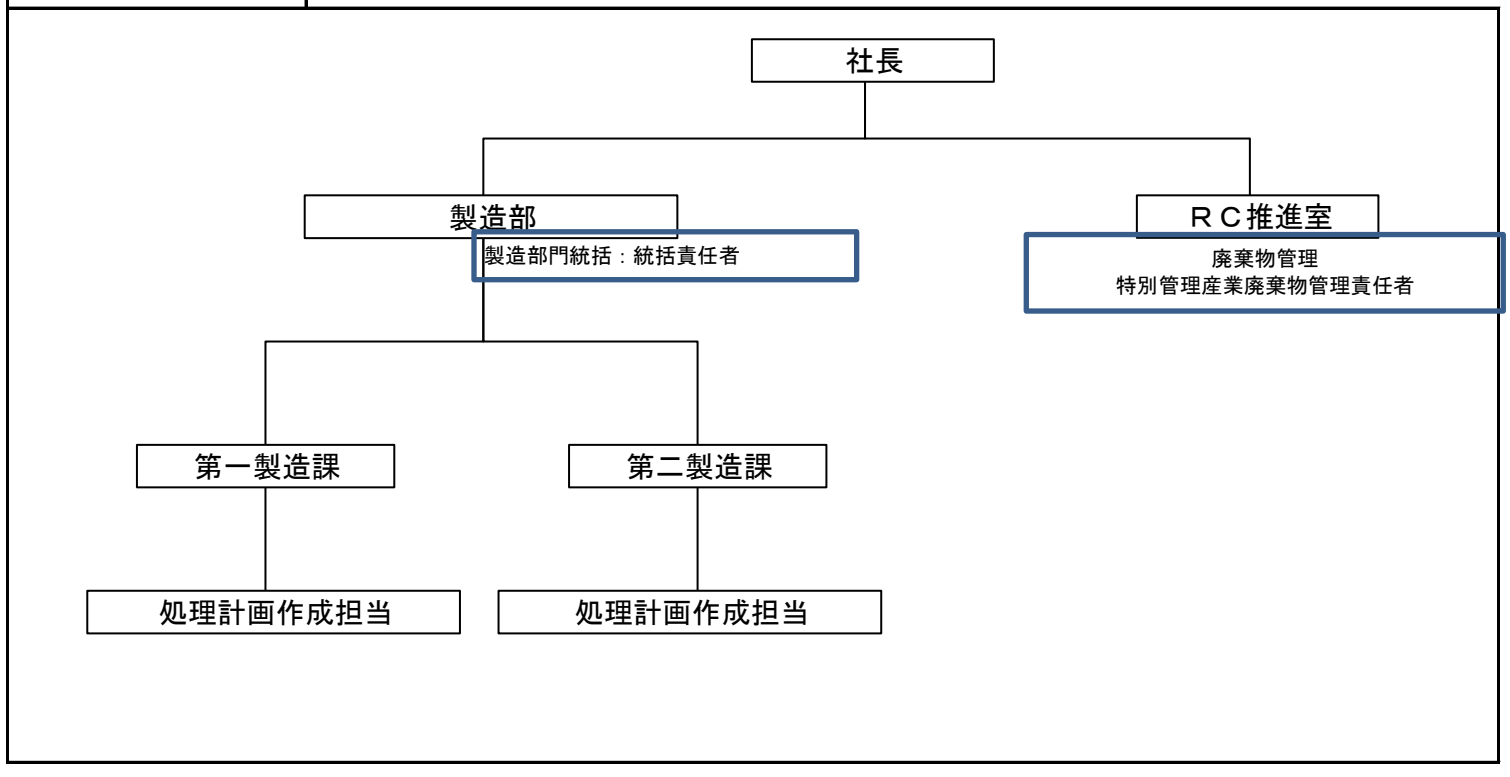
５　「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。

６　「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第６条の14第２号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の３の３第１項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

７　「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第２条の４第５号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあっては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第８条の31の４に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。

８　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が３以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。

（管理体制図）


社長
製造部
製造部門統括：統括責任者
ＲＣ推進室
廃棄物管理
特別管理産業廃棄物管理責任者
第一製造課
第二製造課
処理計画作成担当
処理計画作成担当

セルが足りない場合は右側に追加をお願いします。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項										
	①現状	【前年度（令和5年度）実績】								
		産業廃棄物の種類	廃アルカリ(有害)							
		排　出　量	179 t	t	t	t	t	t	t	t
	②計画	【目標】								
		産業廃棄物の種類	廃アルカリ(有害)							
		排　出　量	150 t	t	t	t	t	t	t	t
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項										
	①現状	【前年度（令和5年度）実績】								
		産業廃棄物の種類	廃アルカリ(有害)							
		自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
	②計画	【目標】								
		産業廃棄物の種類	廃アルカリ(有害)							
		自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項										
	①現状	【前年度（令和5年度）実績】								
		産業廃棄物の種類	廃アルカリ(有害)							
		自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
		自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
	②計画	【目標】								
		産業廃棄物の種類	廃アルカリ(有害)							
		自ら熱回収を行う産業廃棄物の種類	0 t	t	t	t	t	t	t	t
		自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項										
		【前年度（令和5年度）実績】								

①現状	産業廃棄物の種類	廃アルカリ(有害)								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】									
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ(有害)								
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t	t	t	t	t	t	t	t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項										
①現状	【前年度（令和5年度）実績】									
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ(有害)								
	全処理委託量	179 t	t	t	t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	179 t	t	t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t	t	t	t	t	t	t	t
②計画	【目標】									
	産業廃棄物の種類	廃アルカリ(有害)								
	全処理委託量	150 t	t	t	t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	150 t	t	t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	0 t	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	t	t	t	t	t	t	t	t